

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171700271		
法人名	せたな町		
事業所名	瀬棚高齢者グループホーム あさなぎ		
所在地	久遠郡せたな町瀬棚区本町792-2		
自己評価作成日	平成23年10月19日	評価結果市町村受理日	平成23年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の行事等に積極的に参加しており、地域との交流を図っております。また、近隣住民やボランティアの方との交流も図っています。四季を肌で感じていただくため、季節ごとの行事で外出の機会を持っています。室内においても廃用症候群にならないために、本人ができることを見極め、調理や掃除などできることはやっております。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171700271&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジェント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成23年11月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<地域とのつきあいや連携>
 本人がこれまで大切にしてきた知人や友人等の馴染みの人との関係が途切れないように事業所への訪問支援や町内会の行事参加、小学校の運動会見物、火災避難訓練への参加を呼びかける等で地元の人々との交流・連携に努めている。また、地元高校の体験学習や地域のボランティアの受け入れ等でホームの持つ機能の地域への還元が行われている。
<理念の共有とその実践>
 全ての職員が参加して作り上げた「……笑顔で」の理念の実践に取り組み、その達成の為に年間重点目標を掲げケアサービスの質の向上に取り組んでいる管理者・職員の思いや優しさが印象的でした。また、日常生活の様子や健康状態等の家族へのこまめな連絡や情報提供報告等で信頼関係が厚いことがアンケート結果からも伺えた。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目		取り組みの成果 該当するものに 印	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で考え作り上げた理念で、住み慣れた地域との関わりを大切にしながら、その人らしく、安心、安全でゆったりとした居心地の良い暮らしが送れるように支援していくことを掲げ、共有して日々のケアにつなげている。また、年度目標も話し合っ決めて、日々のケアにつなげている。	全ての職員が参加して作り上げた「……笑顔で」の理念の実践に取り組み、その達成の為に年間重点目標を掲げケアサービスの質の向上に取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、積極的に町内会行事に参加している。ボランティアセンターが主催する行事に参加したり、買い物や散歩などでも地域や近所の方々と交流を持っている。	町内会の行事参加、小学校の運動会見物、火災避難訓練への参加を呼びかける等で地元の人々との交流・連携に努めている。また、地元高校の体験学習や地域のボランティアの受け入れが行われている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター養成講座の出前講座や認知症の相談を受け入れていることを町の広報誌で周知している。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の状況や活動状況、外部評価の結果などを報告している。事業所への要望等についても話し合う機会を持っている。	運営推進会議は、行政担当者や包括支援センター職員、家族や町内会役員等が参加して行われ、利用状況など具体的内容について話し合っている。	今後は、年6回を目安に継続的に運営推進会議を開催していくことを期待します。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所の設置主体が町であるため、町の意向を確認しながらサービスの向上に努めている。	市担当者や包括支援センターとは、日常業務を通じて情報交換を行い、連携を深めるように努めている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修に参加し、その内容をミーティングで報告し、共通理解をもてるよう話し合いをしている。	身体拘束廃止や高齢者虐待防止について管理者及び職員は共通認識が持てるように外部研修参加や内部研修を実施し、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修に参加し、その内容をミーティングで報告し、実際の入居者さんとの関わり方なども含め、話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用していた入居者がいたため、概要や活用法を学ぶ機会がある。			
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安のないように十分な説明を行い、理解が得られるように努めている。			
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族交流会で意見を伺う機会を設けている。ご意見箱も設置している他、ご家族が来所された際にできるだけお話するようにしている。	家族や来訪者等が管理者、職員並びに外部者へ意見や苦情等を言い表せるように苦情等の受付箱の設置や市町村等の相談窓口を掲示し、運営に反映できるように取り組んでいる。		
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回ミーティングを行い、意見や提案を聴く機会を設けている。また、日頃からコミュニケーションを図り、問いかけや聞き出しをするよう努めている。	毎月のミーティング等を通じて職員の意見や要望、提案を聞くよう機会を設けている。また、休憩室の増設等職員の働きやすい環境整備に努めている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況や各職員の努力、資格習得の把握、支持をし、向上心をもって働けるように努めている。			
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にはなるべく多くの職員が受講できるようにしている。内部でも勉強会を行っている。研修後は報告書を作成し、閲覧している。			
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修会や勉強会で交流する機会はあるが、頻度は少なく、継続性はない。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人から話を聞くときは、町の担当者に管理者や計画作成担当者が同行し、不安や困っていることなどを受け止めるように努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	町の担当者に管理者や計画作成担当者が同行し、家族の不安を受け止め、事業所としての対応を事前に話し合う様に努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いや状況等を確認し、必要な支援を見極めるように努めている。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩であるという考えを職員が共有し、普段から調理や畑のことなど教えていただく場面を多く持てるようにセッティングや声かけに配慮している。感謝の気持ち伝えていく。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況の変化などがあれば随時ご家族に相談して対応していくようにしている。できるだけ訪問してもらったり、行事に参加してもらうことでホームでの生活を知ってもらうよう情報提供し、家族の思いを受け止め、共に支えあう関係を築けるよう努力している。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人や友人が遊びにきたり、町の行事に参加した際に逢ったりなど関係が途切れないように努めている。	友人・知人が来訪しやすい環境作りや近隣への散歩、買い物や小学校の運動会等の行事参加を通じて馴染みの人や場所の関係が継続できるように取り組んでいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の言動から関係性や相性、その時々々の状況を把握し、申し送りやミーティングで職員が共通理解し、対立や孤立がないように見守りや介入をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	面会にて本人の状況を確認したり、家族へも状況確認等を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	十分とは言えないが、日々の関わりの中で言葉だけでなく、行動や表情からも思いや希望などの把握に努めている。また、家族からも情報を得ながら意向の把握に努めている。	センター方式を活用して、一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、本人本位に取り組んでいる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面接や入居後の家族との面会時や日々の会話から情報の把握に努めている。亡き夫の命日にお参りしてもらうなど続けている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を観察し、個人記録に記すことで現状の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族や本人の意向を確認しながら、日々の観察を基にミーティングで意見交換しながら作成している。	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、センター方式を活用して本人、家族の意見や思いを反映するようにしている。また、カンファレンス、モニタリングを通じて介護計画に職員の意見を反映している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子や心身の変化の気づきを個人記録に記し、申し送りノートでも情報共有している。介護計画の見直し時の評価や新たな課題にも活用している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況や家族の希望に応じて通院や送迎、食事内容など必要な支援は柔軟に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや警察、消防など地域資源の把握をし、日頃から連携をとっている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医としており、受診や通院は希望に応じて対応している。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。また、適切な医療を受けられるように通院への支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調不良などの気づきや情報を気軽に相談できる関係であり、必要時、受診や看護を受けている。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医の説明時は同席させていただいたり、本人や家族、相談員と情報交換をし、早期に退院が検討できるように努めている。			
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームの対応の限界を理解していただき、本人や家族の意向に沿えるよう話し合いはしているが早い段階からは検討していない。また関係機関とのチームでの支援は不十分な状況である。	本人や家族の意向を踏まえ、医師、看護師、職員が連携をとり、事業所ができることを十分に説明しながら職員間で共有している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	運営推進会議や家族交流会で意見を伺う機会を設けている。ご意見箱も設置している他、ご家族が来所された際にできるだけお話するようにしている。			
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、近隣住民や警察署も参加していただき、避難訓練を定期的に行っている。	スプリンクラー、通報装置等の設備が整備され、消防署の協力を得て、年2回避難訓練を地域住民も参加して行われている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心がけてはいるが、言葉かけや対応は十分なものとはいえない。	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉がないようにミーティングや内部研修実施で職員間の周知に努めている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者さんにあわせた説明や決定しやすいような問いかけの工夫をしている。			
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大事にしながらも散歩や買い物など外出の提案をし、自己決定していただくよう努めている。			
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの美容院に行けるよう支援している。外出時にはお洒落着に着替えるなどのお手伝いをしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みだけでなく、食事の動作や時間、量などを把握し、献立に取り入れている。その人のできることを見極めて食事づくりや片付けに参加してもらっている。	職員と利用者が、毎日の調理や食事の準備、後片付け等一緒に楽しんで行えるよう工夫している。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の摂取状況は個人記録に記し、病気や体調、習慣に応じた支援をしている。			
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と就寝時は口腔ケアを行っているが、昼食後は全員には行っていない。			
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間帯や習慣を把握し、排泄パターンに合わせたトイレ誘導をし、トイレでの排泄を促している。	排泄チェック表で排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように時間を見計らって自立への支援している。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食事にし、十分な水分摂取をしていただき、自然排便を促すよう取り組んでいる。			
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者のその日の希望を確認し、入浴していただいている。	一人ひとりの希望やタイミング、生活習慣に応じて支援している。また、本人が希望すれば曜日や時間等が対応可能となっている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない時には無理に眠りを強要せず、職員が話し相手になったり、温かい飲み物を飲んでいただくなどの支援をしている。			
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に処方箋を綴り、薬の副作用などを把握できるようにし、症状や食事量などの変化の確認に努めている。必要時、薬の手渡しや飲み込み確認など支援をしている。			
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事や畑仕事、買い物やドライブ、散歩、読書、編み物など得意なことをやっていただき、役割や楽しみにつなげたり、気分転換をしていただいている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や本人の気分、希望に合わせて買い物やドライブ、散歩、外気浴を楽しんでいた。花見や紅葉狩り、レストランでの外食、温泉入浴などに出掛ける機会を持っている。	一人ひとりの希望にそって、散歩や買い物等戸外に出かけられるように支援している。また、温泉入浴や小学校の運動会参加等の支援が行われている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からお金を預かり、事業所が管理している。機会は少ないが、残金の確認や買い物を希望された時は必要に応じてお金を渡すようにしてる。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にはいつでも家族などに電話できるように支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	まゆ玉やクリスマスツリー、七夕飾りなどで季節を感じていただいている。ご飯の炊ける匂いや茶わんを洗う音など生活感を取り入れる工夫をしている。	リビングや廊下の壁には、行事参加の写真の掲示や季節毎の飾りつけが行われ、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。また、利用者にとって気になる臭いや音の大きさ、光の強さは感じられない。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールに椅子やソファ、テーブルなどを置き、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士でつるげるスペースを作っている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には以前から本人が使っていたものを持ち込んだり、ご家族の写真を飾ったりして本人の意向や家族の思いもききながら居心地よく過ごせる部屋になるよう配慮している。	居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた家具や寝具、家族の写真等が持ち込まれ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室、廊下などには手すり、玄関には座って靴が履けるようにベンチを置いている。必要に応じて部屋やトイレに張り紙をしている。		

目標達成計画

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	重度化や終末期に向けた対応がどの程度まで行えるのか早い段階からの説明ができていない。	重度化した場合や終末期のあり方について早い段階から本人や家族と話し合いができる。	町担当者と話し合いをし、契約書に明文化した指針を盛り込む。町にお願いし、関係機関との話し合いの場を持っていく。入所時から家族と話し合いの場を持っていく。	12ヶ月
2	14	同業者と交流する機会が少ない。	交流する機会を作り、ネットワークを広げ、サービスの質向上を図りたい。	他施設の見学や訪問をする機会を持つ。合同の勉強会などの開催を管理者同士で話し合っていく。職員同士が意見交換などできる場を管理者等が作っていく。	12ヶ月
3	36	誇りやプライバシーを損ねない言葉かけは十分とはいえない。	入居者さんの人格を尊重し、穏やかで丁寧な言葉かけや対応をしていく。	理念や年度目標を共有し、日々のケアにつなげるよう心がける。人生の大先輩であるという考えを職員が共有していく。	12ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。